



RIB

THE
ARTIST
BOOK



先生の
手のひらが
俺に触れた



避けることは
できたんだ



戦闘後の
高揚感と



だけど



冷たいのか
温かいのか

よく
分からない



奇妙な温度に
惑わされた俺は



ほんの
少しだけ驚いた

キスをして
しまったけれど



よく
わかってしまふに



先生の顔なんて
見たことなかった
もんだから

可笑しくて



あ

い

ず





歎息！
この人に上手く利用
されていたとはいえ

今日も変わらず
食事誘って
くるなんて

なかなか
勝てしまった
わけなんだけど

なんとも思っ
ていないのか……？



あぁ
久々に
話が出来て
よかったよ

あぁ

もう
帰るのか

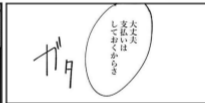
む

はぁ！



手が
触れたら

合図だ



大丈夫
支払いは
しておくからさ



公子殿



これくらい
お前なら避け
られたただろう



…

いいけど

別に





興味本位で
体を重ねた
あの時の







先生……

あのさ



今日は



気持ちいい
ことは好きだ

ただ…

ふ

この人は一体
どう思っ
てるんだ

この関係のこと

んあ

俺のことは？

は…

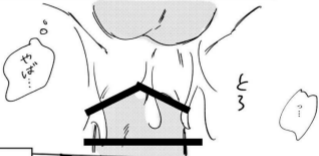




誤りに応えて
しまった俺も腐て

う

あ
ん



や
あ
...

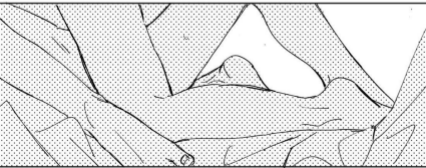
と
ろ

...

無性に
涙が立った











これ以上は
聞くなど…？







ほんと
よく分からないな
この人は



またここに
来るといい

面白い話を
聞かせよう



とりあえず
今は

まあ...

こつという関係も
悪くないでございで
いいかな

ふは

さあ？

どうだろうね